



遠賀中間医師会

2024年03月28日発行

第21号

在宅総合支援センターだより

在宅医療・介護連携推進事業



令和6年1月25日(木) 多職種連携研修会 「薬剤師との関わりから多職種連携を考える」を開催しました

日時 令和6年1月25日(木) 19:00～20:30

会場 遠賀中間医師会館 多目的ホール

講演 ウイン調剤薬局・うめのき薬局 訪問薬剤師 田中 宏樹 氏

パネルディスカッション

司会 東 桂史 氏(楠本内科医院内科・腎臓内科部長 在宅支援部室長)

パネリスト 楠本 拓生 氏(楠本内科医院院長)

田中 宏樹 氏(ウイン調剤薬局・うめのき薬局)

中村 健吾 氏(楠本内科医院看護師長)

小西 裕子 氏(おなが病院ケアプランセンター管理者)

桐田 可奈会 氏(遠賀中間医師会訪問看護ステーション管理者)



講演では、訪問薬剤師の役割、薬剤師との連携、薬剤師在宅ネットワークをキーワードに、訪問薬剤師の機能を活用することで多職種の負担軽減や本人・家族のQOL向上につながるということについて熱くお話をいただきました。パネルディスカッションでは、事例を基に、多職種連携を実感できたことや、多職種連携で工夫している点、連携を行う際に必ずやってほしいと感じる事等を職種ごとに伝えていただきました。今回の研修では、他職種との連携(必要性の確認や方法論等)のヒントが多くありました。また、多職種での情報連携を容易に行うための具体的な方法としてのMCSの活用がよく分かる内容となりました。

令和6年2月17日(土) 多職種研修会 「講演・映画PLAN75上映」を開催しました

日時 令和6年2月17日(土) 10:00～13:00

場所 遠賀町中央公民館 2階 大ホール

内容 ①講演「住み慣れた我が家で最後を迎えるには～本人・家族の思いを支える～」

遠賀中間医師会おかがき病院 総院長 末廣 剛敏 氏

②映画「PLAN75」 主演 倍賞 千恵子 さん

75歳以上が自らの生死を選択できる<プラン75>という架空の制度を媒介に、人は何を選択しどう生きていくのかを問いかける作品

地域で暮らす高齢者や在宅で療養されている方等の支援に関わる方に、在宅医療について知っていただき、日頃の活動に活かすことのできる研修会として開催しています。地域の医療・介護従事者や一般住民の方を対象とした、在宅医療についての講演と関連する映画上映を行う研修会を実施いたしました。講師には、遠賀中間医師会おかがき病院総院長の末廣剛敏氏をお招きいたしました。「住み慣れた我が家で最後を迎えるには～本人・家族の思いを支える～」をテーマに、在宅での看取り例を基にして、最後まで希望に沿った看取りができるためのポイントを分かりやすく説明していただきました。研修後のアンケートからは、人生会議について大きな反響がありました。「自分がどうしたいかをしっかり考え、これからどう生きるのかを親しい人と話し合う」といった声が聞かれました。



特集コーナー

今回は「遠賀郡消防本部について」ご紹介いたします。

遠賀郡消防本部の概要

遠賀郡消防本部は、遠賀郡4町を管轄地域として遠賀郡消防本部(署)、遠賀郡消防署芦屋分署、遠賀郡消防署岡垣出張所の1本部(署)、1分署、1出張所で構成されています。

各署所に消防自動車が配備されていますが、その中で救急車は遠賀郡消防署に2台、芦屋分署に1台、岡垣出張所に1台の計4台を配備しています。

職員数は121名(令和5年4月1日時点)で、現場業務(火災や救急など)には96名(内女性職員3名)が従事し、うち専従の救急隊員が20名、消防業務を兼任している救急隊員が24名の計44名で日々の救急業務を行っています。

遠賀郡の救急概要等

右の図(図1)は過去10年の遠賀郡の総人口と高齢者(65歳以上)人口の推移です。図を見てわかるとおり、遠賀郡の総人口は右肩下がり減少していますが、高齢者の数は逆に増加しています。

遠賀郡の高齢化率は約33.7%で、福岡県全体の高齢化率の27.6%と比較しても非常に高くなっています。

次の図(図2)は遠賀郡内の過去10年間の救急出動件数と救急搬送人員を表したものになります。こちらを見ると、令和1年から令和3年まで新型コロナウイルス感染症による外出自粛等も影響して減少しましたが、令和4年から急激に増加し、令和5年は過去最高の6,059件となりました。

前に述べたように、遠賀郡の総人口は徐々に減少しているのに対して、救急の出動件数は年々増加の一途をたどっています。

なぜ救急件数は減少しないのでしょうか？

救急の搬送状況をもう少し詳しく見てみます。

高齢者の救急搬送

こちらの図はその年における救急搬送状況を年齢区分別にパーセントで表したものです。この図から、成人(65歳未満)の搬送数は減少傾向にあり、高齢者(65歳以上)の搬送数は増加していることが分かります。これは図1の高齢者人口推移と同じ傾向を示していることから、高齢者人口の増加＝救急搬送数となっていることが分かります。

それでは、高齢者の救急搬送についてもう少し詳しく見ていきます。

図1

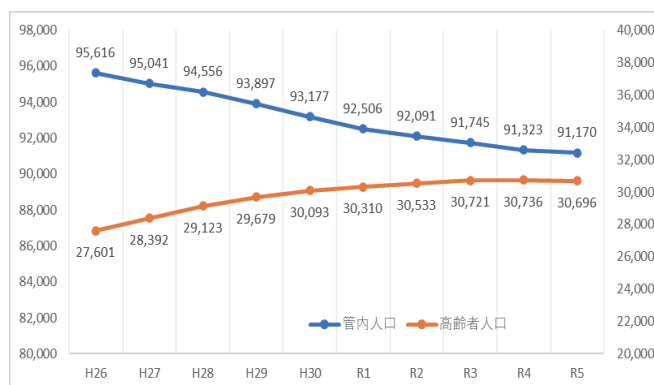


図2

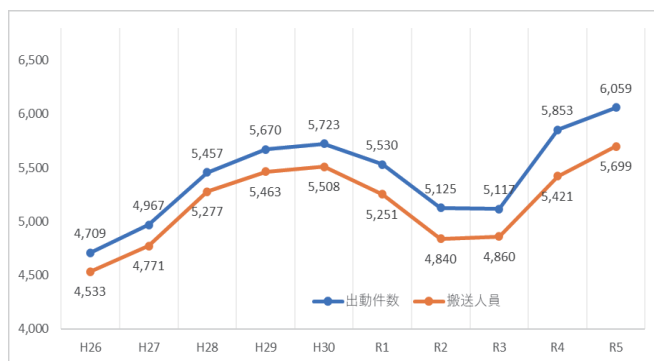
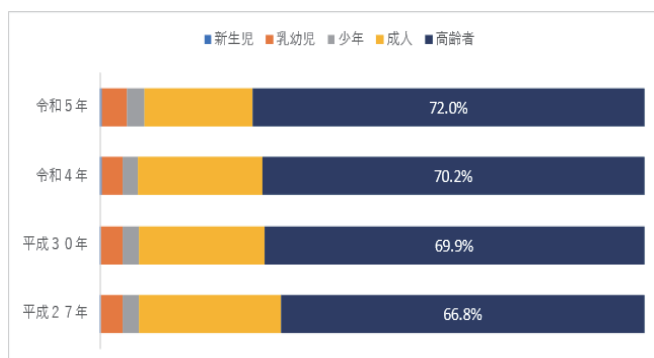


図3



高齢者の救急搬送種別

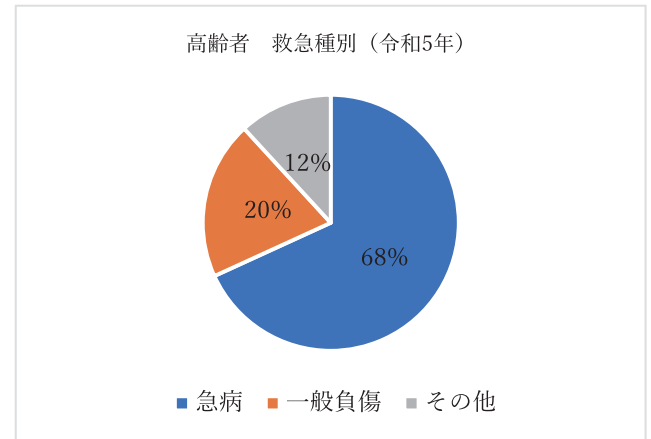
右の図は遠賀郡の令和5年の高齢者の救急搬送を事故種別ごとにパーセントで表したものです。

急病及び一般負傷が全体の約9割を占めており、高齢者の救急搬送の大多数はこの2種別が占めていることが分かります。最も多い割合を占めている急病は、持病の悪化や免疫力低下による体調不良など、全てを防ぐことはなかなか難しいものですが、2番目に多い一般負傷は、転倒や転落などによるケガの事を指し、ケガの中には、少しの注意や事前の対策で防げたかもしれないものもあります。

このような救急搬送につながるケガや病気を未然に防ぐ事前の対策のことを「**予防救急**」といいます。

では予防救急とはどういうものなのか、もう少し詳しく解説します。

図4



予防救急とは？

みなさんは、高齢者の一般負傷はどこで多く発生していると思いますか？

「屋外？」「屋内？」・・・

実は全国的に高齢者の一般負傷の多くは屋内で、さらに自宅内で多く発生しています。普段住み慣れた自宅にも予期せぬ危険が潜んでいるのです。

ケガの原因で一番多いのが転倒、次いで転落となっています。遠賀郡消防本部でも令和5年に一般負傷で救急搬送された高齢者の方の約7割が転倒によるものでした。

小さな段差や電気コードなどにつまずく、ベッドや脚立から転落するなどして救急搬送されることが多くあり、特に高齢者の場合は骨折を伴うような大きなケガや寝たきりなることに繋がってしまいます。これらのケガに繋がる危険から身を守るために、「手すりや廊下に滑り止めをつける」、「ベッドに転落防止用の柵をつける」、「整理整頓しておく」など日頃からできる限りの対策を行い、意識しておくことが大切です。

その他にも、食べ物を喉に詰まらせる「窒息」や「物にぶつかる」等も高齢者に多い一般負傷として挙げられます。

このような身近に潜む危険を察知し、原因や注意点、予防のポイントを知り、救急搬送につながるケガや病気を未然に防ぐ取り組みの事を予防救急と言います。

予防救急に関しては、総務省消防庁のホームページにも詳しく掲載されていますので、【消防庁 予防救急】とインターネットで検索してみてください。

是非この機会に、ご家族やご友人など一緒に日常に潜んでいる危険について考えてみてください。

そして病気やけがを未然に防ぎ、健康寿命の増加に繋がましょう。



令和6年度研修会計画

◎出前講座

地域住民の皆様へ在宅医療に関する情報の普及啓発を図ることを目的に実施しています。地域の公民館等にお伺いして講話をさせていただきます。(事前申し込み制)
詳細は、在宅総合支援センターまでお問い合わせください。

◎医療介護関係者研修

多職種研修会、同行訪問研修、施設看取り出前講座などを実施予定です。



メディカルケアステーション(MCS)

医療・介護従事者のためのコミュニケーション・情報共有ツール

MCSは医療介護専用の完全非公開型SNSで、多職種連携のためのコミュニケーション、情報共有ツールです。必要な情報を関係者間で共有することができます。

遠賀中間地域連携コミュニティ

遠賀中間地域の医療機関・介護サービス事業所等を対象として、MCSの自由グループを作成しています。コミュニティに参加してつながりに登録すると患者グループへの招待や参加がスムーズに行えます。また、参加者(多職種)間の交流の場としています。詳細は、在宅総合支援センターまでお問い合わせください。



遠賀中間地域在宅医療・介護資源マップ

遠賀中間地域在宅医療・介護資源マップを在宅総合支援センターのホームページに掲載しています。

遠賀中間地域の医療機関や介護サービス事業所を、カテゴリー(種別)やエリア、名称等から検索して閲覧することができます。在宅総合支援センターのホームページから、どなたでもアクセスできます。ぜひお気軽にご利用ください。



在宅医療に関する医療機器整備(無料貸出)

当センターでは、在宅医療に使用する医療機器、研修用シミュレータを医療機関及びサービス事業所に無料貸し出しを行っています。借用の手続きや貸出物品などの詳細は在宅総合支援センターのホームページをご覧ください。

＜医療機器貸出物品＞
○ ポータブル吸引器
○ ポータブル吸入・吸引両用器 ○ ネブライザー ○ 点滴スタンド
○ 自然落下式輸液ポンプ ○ PCAポンプ ○ カフティポンプ
○ カフ圧計 ○ 血液ガス分析器(携帯用) ○ もの忘れ相談プログラムなど



PCAポンプ



血液ガス分析器
(ガスタットナビ)

在宅医療に関する相談窓口について

在宅総合支援センターには在宅医療・介護に関する相談窓口があります。お電話でのご相談も行っています。
専門のスタッフがおりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

在宅医療相談窓口

受付時間 月～金曜日
9時～16時
電話 093-281-3100
FAX 093-281-3105



発行 遠賀中間医師会 在宅総合支援センター

〒811-4342 遠賀郡遠賀町大字尾崎1725番地2

TEL 093-281-3100 FAX 093-281-3105

URL : <http://www.onnaka-med.or.jp/zaitaku/>